

2024年 秋号

ふくら通信

こんにちは。2024年ふくら通信秋号です。

朝晩は涼しくなってきたと思っていたら、日中も過ごしやすい気候になってきました。

この時期、窓を開けると秋の風が心地よく吹き抜け、色づき始めた木々が目に映り、思わず深呼吸をすると、秋の香りを楽しめます。この美しい秋の日々を大切にしながら、外へ出て新しい体験を楽しむことができる喜びを、利用者様と存分に味わいたいと思っております。

今年も残すところ3か月となりましたが、楽しい思い出の残る2024年にしていきたいと思っておりますので、今後どうぞよろしくお願い致します。

社長コラム

株式会社FUKURA 代表取締役 須田 祥子

【子供の心を育てる笑顔】

子供の心を育てる大切なものは、まず「笑顔」と言われております。コロナからマスクをする機会が増え、小児科のドクターは入院中の子供達が大人の笑顔を見る機会がないことを憂いております。コロナより笑顔を見られない子供の情緒の発達が心配であると。

本来あるはずだった笑顔と出会う機会を少しでも取り戻せるように、笑顔で子供たちと接していきたいですね。

【子供の心を育てる魔法の言葉】

タイトルにありますように、子供にとって心が育つ魔法の言葉が4つあると言われております。「可愛いね」「良い子だね」「大好きだよ」「ありがとう」です。ふくらでは、この言葉をたくさん伝えることを心がけております。お手伝いをする「ありがとう」と言ってもらえますが、お世話になることの多いふくらの子供たちは、なかなかそういった機会が少ないかもしれません。しかし「一緒にいてくれてありがとう」「今日も会えてうれしかったよ、ありがとう」と伝えてあげたいと思っております。

【子供の心に何を育てるか・大人の善き感化】

コミュニケーションが取れなくても、またどんな重い障害があっても心は健全で喜びも悲しみも私たちと同じである。ということは、ご家族の皆さんが実感されていることと思います。お話が出来ない分、心や耳はとても敏感になっていて、あたかもその会話に参加しているかのように、実は子供たちは会話をよく聞き、心で受け止め、日々感化されていると思います。どんな心を育てていくかは、そばにいる大人たちの会話や立ち振る舞いにかかっていると言っても過言ではないと思います。そばにいる人が、悪口や愚痴不平不満ばかりを言っていると、聞いている子供たちの心にも人の悪いところに目がいたり不満などのネガティブな感情が育ってしまいます。逆に、そばにいる大人たちが「ありがとう」「嬉しい」「助かるよ」という言葉をかけあいながら感謝し合える姿や立ち振る舞いを見せていくことは、そばにいる子供たちにも「嬉しいな～、幸せだな～」というハッピーを感じやすい心が育っていくと私は思っております。

私は神様を信じていますし、あの世も、天国も地獄もあると思っております。いつかあの世に帰るのであれば、天国的な心を育ててあげたいと思っております。そばにいる大人たちは、善き影響を与える責任があるのではないかと思います。

FUKURA

